

北陸東海近畿土を考える会 夏期研修会

2024年9月6日

北陸東海近畿土を考える会は8月24日に海津市で5年ぶりに夏期研修会を開催しました。今回の研修会は、「経営規模を拡大する農業経営の処方箋」をテーマに、さまざまな企業からの情報提供をいただき、北陸東海近畿土を考える会会員と企業、事務局を含め、53名が参加しました。



高木会長

はじめに、サンフレッシュ海津の高木会長の実証ほ場で、同じ土壌条件と播種日の大豆2品種の比較。湿害にも強いトヨタ自動車の品種「高オレイン酸大豆」との差は歴然で、『品種に勝るものはない』と高木会長からコメント。次に、豊田通商の多収米「しきゆたか」ほ場を視察し、背が低く倒伏に強いことや、海津市で60ha栽培し全て輸出しているとお話をいただきました。

次に、現地研修として、ヤンマーアグリジャパン(株)が「ドローンでの米麦大豆 播種・防除・施肥」としてDJI製ドローンのT50を紹介。(株)東海近畿クボタから「人手不足を解消!アグリロボ コンバイン・トラクター」として、MR1000Aの無人トラクターとコーンヘッダーの紹介。スガノ農機からは「子実コーン収穫後の細断〜耕起〜整地〜播種一貫体系」として、サイドカッター、スタブルカルチ、12インチ浅耕プラウ、18インチ特注プラウ、ランドハロー、レベラー、スプリングハローの実演紹介が行われました。天気も何とか現地研修終了までもち、その後、座学研修と懇親会が行なわれる海津温泉へ移動しました。

座学研修では、豊田通商(株)・(株)水稻生産技術研究所から「これからの稲作農業としきゆたかについて」、(株)ゼンショーホールディングスから「食で世界を変える」、住商アグリビジネス(株)から「3年がかりの土壌有機物再生事業」、コルテバ・ジャパン(株)から「乾田直播栽培における除草体系について」、BASFジャパン(株)から「ザルビオフィールドマネージャーについて」、東神電気(株)から「つながるネ!芽ざめるネ!土壌微生物活性剤トゥルーソラム」、日本メイズ生産者協会から「子実コーンの市場性・収益性と土壌改良への利用」と7社から、情報提供をいただきました。

その後行われた懇親会では、皆さん積極的に情報を交換をし合い、2次会まで盛り上がりしました。



実証ほ場 トヨタ自動車の大豆「高オレイン酸大豆」



現地研修の様子



実証ほ場 大豆 従来の品種



座学研修の様子



懇親会の様子

